

平成26年度病虫害発生予察予報第8号（11月）

平成26年11月5日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量
抑制、促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ	やや少～平年並 平年並 やや少 平年並 平年並
促成トマト	すすかび病 タバココナジラミ ハスモンヨトウ	平年並～ やや多 やや少～平年並 平年並
促成ナス	青枯病 うどんこ病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ ホコリダニ類	少 多 多 平年並 やや多 やや多
促成ピーマン、シシトウ	うどんこ病 黒枯病 ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ ヒラズハナアザミウマ タバココナジラミ	多 やや多 平年並 平年並 平年並 平年並

I 気象予報（高松地方気象台10月30日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞11月1日から11月30日

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年並または高い確率ともに40%です。降水量は平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は平年並の確率50%です。2週目は高い確率50%です。3～4週目は平年並または高い確率ともに40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
1ヶ月	四国地方	気温	20	40	40
		降水量	20	40	40
		日照時間	40	40	20

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	20	50	30
2週目		20	30	50
3～4週目		30	40	40

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：11月1日（土）～11月30日（日）

1週目：11月1日（土）～11月7日（金）

2週目：11月8日（土）～11月14日（金）

3～4週目：11月15日（土）～11月28日（金）

II 病虫害発生予想

1 抑制、促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予想 発生時期：平年並／発生量：やや少～平年並

根 拠

(1)巡回調査では県中央部、西部の一部のほ場で僅かに見られた程度であった。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が平年並～多めと予想されているが、現在の発生状況から、発生量はやや少～平年並で推移すると考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

(1)巡回調査では県中央部、西部で下葉を中心に発生が見られた。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が平年並～多めと予想されているため、大幅な増加はないと考えられる。

対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) 黄化えそ病

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや少

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られたが、平年に比べやや少なめの発生となっている。

(2)本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマは、県中央部ではやや多発生、県中西部、西部では少発生、県下全体では平年並の発生であった。

(3)気温の低下にともない、ミナミキイロアザミウマの野外密度が低下することから、ほ場外からの本虫の飛び込みは少なくなると思われる。

対 策

(1)ミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。また、本病の発生株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県中央部ではやや多発生であったが、県中西部、西部では平年より少なめの発生であった。

(2)気温の低下にともない、野外密度が低下するためハウス内への飛び込みは少なくなると思われる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) ハスモンヨトウ

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で被害株が見られたが、平年並の発生であった。

(2)県下（安芸市、香南市、南国市、須崎市、四万十市）に設置してあるフェロモントラップにおける誘殺数は平年に比べ少ない。

対 策

(1)成虫は植物体に卵塊を産みつける。ハウス開口部にネット被覆をしている場合、ネットに産み付けられた卵塊から孵化した幼虫がハウス内に侵入するので注意する。

2 促成トマトの病害虫

1) すすかび病

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並～やや多

根 拠

(1)巡回調査では一部のほ場で発生が見られたが、下葉中心の発生であった。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が平年並～多めと予想されているため、発病が増加すると考えられる。

対 策

(1)多湿条件で発生するので、過繁茂にならないように整枝するとともに換気に努める。

(2)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。また、本病は葉かび病に酷似するので、防除薬剤の選定に注意する。

2) タバココナジラミ

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや少～平年並

根 拠

(1)巡回調査では一部のは場で発生が見られたが、寄生株率は低かった。

(2)気温の低下とともに、野外密度が低下するため、今後、ほ場への侵入はほとんどなくなると考えられる。

対 策

(1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

3) ハスモンヨトウ

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

(1)巡回調査では一部のは場で発生が見られたが、被害株率は低かった。

(2)県下（安芸市、香南市、南国市、須崎市、四万十市）に設置してあるフェロモントラップにおける誘殺数は平年に比べ少ない。

対 策

(1)成虫は植物体に卵塊を産みつける。ハウス開口部にネット被覆をしている場合、ネットに産み付けられた卵塊から孵化した幼虫がハウス内に侵入するので注意する。

3 促成ナスの病害虫

1) 青枯病

予 想 発生時期：平年並／発生量：少

根 拠

(1)県東部、西部の一部のは場で発生が見られた。

(2)気温の低下とともに、ほ場内での進展は無くなると考えられる。

対 策

(1)発病株を引き抜くことにより、隣接する株の根が傷つき、感染が拡大するので、発病株は株元で切除し、ほ場外で処分する。また、本病は汁液伝染するので、管理作業に気を付ける。

2) うどんこ病

予 想 発生時期：平年並／発生量：多

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で見られた。下葉に散見される程度の発生が主であったが、平年に比べ発病程度は高かった。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が平年並～多めと予想されているため、現在の状況が続くと思われる。

対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) 黒枯病

予 想 発生時期：早い／発生量：多

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で見られた。全般的に発病程度は高くなかったが、県東部

では平年の6倍強の発生面積であった。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が平年並～多めと予想されているため、多発傾向が続くと思われる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で見られた。県東部、西部では平年より少なめの発生であったが、県中央部では平年並の発生であった。

(2)気温の低下にともない、野外密度が低下するためハウス内への飛び込みは少なくなるとと思われる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並～やや多

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で見られた。すす病の被害は見られていないが、県中央部では寄生株率が高いほ場も見られた。

(2)気温の低下とともに、野外密度が低下するため、今後、ほ場への侵入はほとんどなくなると考えられるが、現在の状況から平年並～やや多めの発生になると思われる。

対 策

(1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

6) ホコリダニ類

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや多

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で見られた。県中央部では平年に比べ多めの発生であり、被害株率の高いほ場も見られているため、やや多めの発生になると思われる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底する。

(2)薬剤防除を行う場合、生長点付近を中心にたっぷりと薬剤散布を行う。また、発生株だけでなく、周辺の株も防除を行う。

4 促成ピーマンの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生時期：平年並／発生量：多

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。全般的に多めの発生であり、県中央部では発生面積が平年の2倍以上であった。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が平年並～多めと予想されているため、病勢の進展は少ないと予想されるが、現在の状況から多発生が続くと思われる。

対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや多

根 拠

(1)巡回調査では県中央部、中西部で見られたが発病程度が高いほ場は見られなかった。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が平年並～多めと予想されているため、発生が増加すると思われる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) ハスモンヨトウ

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で被害株が見られ、県中西部では被害株率が高いほ場も見られた。

(2)県下（安芸市、香南市、南国市、須崎市、四万十市）に設置してあるフェロモントラップにおける誘殺数は平年に比べ少ない。

対 策

(1)成虫は植物体に卵塊を産みつける。ハウス開口部にネット被覆をしている場合、ネットに産み付けられた卵塊から孵化した幼虫がハウス内に侵入するので注意する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で見られた。県中西部では平年より多めの発生であった。

(2)気温の低下にともない、野外密度が低下するためハウス内への飛び込みは少なくなるとと思われる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) ヒラズハナアザミウマ

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で見られたが、寄生頭数が多いほ場は見られなかった。

(2)気温の低下にともない、野外密度が低下するためハウス内への飛び込みは少なくなり、密度の大幅な増加は見られないと思われる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

6) タバココナジラミ

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で見られた。すす病の被害は見られていないが、全般的に平年に比べ寄生株率が高めであった。

(2)気温の低下とともに、野外密度が低下するため、今後、ほ場への侵入はほとんどなくなると考えられる。

対 策

(1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ（こうち農業ネット）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.

ち農業ネットサービス※

を使った病害虫関連情報（どなたでも利用可能です）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/info>（Iモード）

→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報（ezweb）

四国メ報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：(ヤフー)

- ①病害虫発生予察

※ 閲覧は無料ですが通じます